

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に開かれたサービス提供を施設紹介に記載している。	○  地域へ働きかけるような理念作りを検討していきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	採用時の研修やミーティングで周知できるようにしている。	○  3ヶ月1回のサービス計画の定期評価の時に、理念を実践できているか確認している。
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	入所時に目標として家族に説明している。運営推進会議などで地域の人に理解してもらえるように取組んでいる。	○  運営推進会議での町会・家族への話し合いからの波及効果や、行事や余暇活動での地域への交流をより充実したい。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	運営推進会議で町会長さんや婦人部の方とつながりが出来、気軽に来てくれる事を促している。行事等に協力したいとの発言もある。また、利用者と一緒に近隣を散策し、認知症の方を自然に地域の人に理解してもらえるようにしている。	○  幼稚園との交流は継続している。気軽に立ち寄ってもらえる雰囲気作りに配慮し、前庭や周囲の環境整備をしている。地域の行事参加等で認知症の理解をもらえるようにしていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義・結果を職員で理解し改善していけるようにミーティング等を利用し話し合い、出来ることから取組んでいる。	○ 自己評価は管理者が行っているが、今年度からは他の職員にも実施してもらい総合的に自己評価を行っている。結果は回覧し公表している。
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の内容を報告し、家族からの意見等で改善項目があれば実施できるようにサービス向上に努めている。	○ 会議に結果を参加できなかった家族にも公表し、サービス向上に活かしていく。
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議や要介護認定の更新時・不明な事務手続きの時など行き来し、担当者からの話をサービス向上につなげる努力をしている。	○ より市町村との連携を深める努力をしたい。
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	今年度の運営推進会議の場において、成年後見制度についての研修を行い、制度の理解に努めている。	○ 定期的に研修を実施し制度の理解に努めていく。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体的な虐待だけでなく、言葉による虐待が無いようにミーティング等で職員間で注意をしている。	○ 参考文献を基に全職員で学習する予定。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
10	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者・家族の立場で説明する事を心がけ疑問の有無を聞き同意を得ている。	○  契約を結ぶ時は家族はよく説明を聞いてくれるが、解約の時は不安な様子が見られる為、説明や情報提供に努力していきたい。
11	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常のケアの中で利用者の意見・不満に耳を傾けるようにし、ミーティングの中で反映させている。	○  外部者への不満・苦情を表せる機会をもつ為には第三者評価も検討していきたい。
12	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月1回の「さくらばやし通信」で暮らしぶりを家族へ報告している。金銭管理・健康状態は面会時に記載したものを確認してもらっている。	○  今後も継続したい。
13	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書の中のサービス内容に関する苦情窓口を明記し、入所時に説明している。また、家族が意見を出しやすいように面会時などに個別に声掛けをしている。	○  運営推進会議などを利用し家族の思いを外部へ表せる機会を設けたい。
14	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや職員会議の内容を日誌・会議録に記載し法人へ提出している。また、月1回の法人で実施している運営会議へ意見を提出している。	○  今後も継続したい。
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	1階・2階のユニットが申し送り等で常に情報を共有し協力し合い、休憩時間や勤務の変更及び業務の調整等を行い、職員の配置を柔軟に変更している。	○  今後も継続したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	引継ぎを充分に行い、利用者へのダメージを少なくするように配慮している。	○	2階夜勤専任者の退職者が相次いだ為、研修期間の延長を図り利用者への影響に配慮した。今後も研修を充分に行い職員の変更時には利用者へのダメージを最小限にとどめる努力をしていきたい。
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
17	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	働きながらトレーニングする事に重点を置き、毎日のサービスの中で気になる事があれば随時職員間で確認や話し合いをしている。また、管理者や法人にも助言を求めている。	○	法人内の研修の他にグループホーム内での研修にも力を入れていきたい。
18	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワークづくりの為同業者と交流するように努力しているが、勉強会をするまでには至っていない。	○	他の事業所の見学や交流に努力したい。
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩室は利用者から離れた別棟に有り、短時間でもリフレッシュできる環境にある。	○	心身共に体調不良の職員がないか配慮していきたい。
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	利用者のケア内容や目標を日々確認し、職員が問題と考える事・実践してみたい事等を取り入れ向上心を持てるように努めている。	○	日々の仕事の中で声掛けをしながら仕事への意欲・向上心の高揚を図っていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人・家族の訴えに耳を傾け、家庭訪問等で現状把握に努めている。	○  本人・家族が納得して入所できるように見学や説明に努力したい。
22	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じ法人の介護支援専門員と連携を図り、他のサービスの対応も検討している。	○  今後も必要なサービスを見極められるように努力したい。
23	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所時・入所後にも利用者の生活歴を把握する事に努め、コミュニケーションを積極的に図りながら馴染みの関係づくりに努めている。また、馴染みの物を居室に置き、自分の部屋らしく落ち着ける雰囲気にするように努めている。	○  今後も入居に伴う不安の軽減や入居者の方との信頼関係の構築に努めていく。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	居室の清掃や生け花など、毎日の生活で出来る事はしてもらい出来ない事は補いながら支えあう関係を築いている。	○  利用者を敬い学ぶ姿勢を心掛けたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	情報提供に努め、家族に出来る事は家族にお願いしている。	○	細かな情報提供をしていきたい。
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入所後も生活歴の把握に努め、ホームでの生活の情報提供をしながら、本人と家族の良い関係の支援をしている。	○	今後も継続したい。
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が馴染んだ場所への外出支援などを行っている。	○	家族の協力を得ながら実施していきたい。
28	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者間の良好な人間関係が構築できるように普段のコミュニケーション等に配慮している。	○	生活環境を整え、個人の個性・適正を把握する事に努めたい。
29	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後も必要に応じ家族と連絡を取り合い次のサービスへ繋げる努力をしている。	○	サービス終了後も家族の不安が無いよう相談に応じる姿勢を示していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いを理解する為に家族歴・生活歴の把握に努め、困難な事が有った時は職員間で話し合っている。	○ 今後も継続したい。
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居相談時や面会時を利用し、家族からの情報収集に努め把握に努めている。	○ 今後も継続したい。
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	食事・睡眠・排泄状況などを記録や申し送りで把握するようにしている。	○ 本人の有する力や、出来る事、出来ない事についてこれからも把握する努力をしていく。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成時は本人・家族に確認しながら行っている。	○ 定時の介護計画評価の他にも随時見直しをしている。
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状況変化をミーティングで話し合い、家族へ連絡すると共に計画変更を行っている。	○ 今後もニーズに合ったケアを行えるように話し合いの場を設けていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌・連絡簿等を活用しミーティングにおいて情報を共有・確認し実践、計画に活かしている。	○	記録・情報収集についてより良い物を検討していきたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
36	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人・協力医療機関との連携により状況に応じた支援している。	○	個別の要望にも対応する努力をしていきたい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
37	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	必要に応じ地域の資源の活用をしている。	○	地域に協力してもらえるように広報活動にも努力したい。
38	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	法人の介護支援専門員と連携をとりながら、他事業所とも話し合う機会を得るようにしている。	○	今後検討していきたい。
39	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在は出来ていない。	○	権利擁護についての研修を行い理解に努めたい。



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	継続的に受診できるように支援している。	○	今後も現状で対応していきたい。
41	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医ではないが係りつけ医に情報提供や相談をしている。	○	今後も現状で対応していきたい。
42	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	職員に看護師を配置し健康管理に努めている。	○	かかりつけ医との連携を深めていきたい。
43	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	家族を通じての情報提供により支援している。	○	今後も現状で対応していきたい。
44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に話をすると共に入居後、状態が変わった都度状態報告と共に話し合いをする努力をしている。	○	状態報告を密にし家族との信頼関係を構築することで話し合いをしやすい雰囲気を作っていきたい。
45	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	かかりつけ医に状態報告し、家族の意向を踏まえながら出来ることを支援している。	○	利用者の変化に対応できるように努力したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人の意向を尊重しながら情報交換に努めている。	○	今後も現状で対応していきたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>				
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>				
47	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーを損ねないように、一人一人の特徴を把握しながら言葉かけや対応をするように配慮している。また、個人情報に関する事は目のつかない所に保管している。	○	個人情報を尊重しながらも互いに共感できる生活を作り上げたい。
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者との関わりから思いを把握できるように努めている。また、自己決定を原則としている。	○	希望を表現しやすいような環境作りや言葉かけに配慮したい。
49	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースを大切にしながらも健康状態を損ねる事が無いように配慮し、快適で楽しく1日を過ごしてもらえるようにしている。	○	個人の特徴を捉え、希望にそう努力をしている。
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
50	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	季節感を配慮した服装・身だしなみに配慮し、本人や家族の要望を実現できるように努めている。	○	今後も現状で対応していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みに配慮し準備や後片付け等、出来る事は協力してもらっている。職員も楽しめるような雰囲気を作っている。	○	月に1回「調理の日」を設け利用者の好みや季節感を取り入れた献立を提供している。
52	○本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲酒・喫煙する利用者は現在いないが安全確保を念頭におき支援していきたい。飲み物やおやつなどについては個々に準備するなどして提供している。	○	今後も現状で対応していきたい。
53	○気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個別の排泄表を設け、排泄パターンや排泄状況を把握に努めながら対応している。	○	環境整備にも努力したい。
54	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	健康状態や希望に合わせた入浴に配慮しているが、曜日や時間帯はほぼ決めている状態。	○	入浴時の安全を確保しながら利用者の意向にそう努力をしたい。
55	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個別の生活パターンを把握する事で安眠・休息を支援している。	○	日課や・行事にも変化をつけ休息や安眠を促したい。
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴・毎日のケアの中から役割や楽しみごとの把握に努め支援している。近隣のイベント見学や外出の機会をつくって気分転換を図っている。	○	一人ひとりの希望に添った余暇活動や日課など考えていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別の状況に応じて買い物へ外出する等の支援している。	○	外出や行事の時などは出来るだけ利用者に支払いをしてもらうようにしている。
58	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣のイベント見学や買い物等の希望を聞き出来る限り支援している。	○	今後も現状で対応していきたい。
59	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	実施できていない。	○	利用者・家族から情報を収集していきたい。
60	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設置している。手紙については、余暇活動を兼ねて年賀状や暑中見舞いのはがきを作り家族へ送っている。	○	今後も現状で対応していきたい。
61	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	前庭や居室等明るく開放的な環境作りに配慮している。	○	職員の対応も気軽に訪問できるような雰囲気にしていきたい。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
62	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束無いうようミーティングで確認している。	○	内部研修を行い再度確認していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	帰宅願望など利用者の特徴を把握し、鍵をかけずに対応できるようにしている。また、1階入り口はセンサーでチャイムが鳴るようになっている。	○	ハード面での配慮がなされているが、一人ひとりの思いを把握する事で鍵が無くても良いケアを目指していく。
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者が常に見える場所において様子や居場所を確認している。	○	職員間での申し送りを徹底していきたい。
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者・家族の同意のもとに保管方法を決めている。	○	今後も現状で対応していきたい。
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	知識を学ぶ他に、事故発生時には報告書を作成し原因・予防策を職員間で検討している。また、利用者の身体状況を把握し事故防止に取り組んでいる。	○	万が一事故が発生した場合は、事故の要因について検証しながら、事故防止について学んでいきたい。
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	法人での救急処置の研修に全職員が参加している。	○	今後も現状で対応していきたい。
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定時の避難訓練を実施すると共に、地域の人々と協力できるように運営推進会議の時などをお願いしている。	○	地域の協力を得られるように働きかけていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族の面会時や定期のお知らせで近況を報告し、リスク対応の理解と協力を得ている。	○	今後も現状で対応していきたい。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
70	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入所時に身体状況を把握し変化に気づけるように努めている。また、係りつけ医や家族に速やかに情報を提供し指示をもらっている。	○	異変時の継続的な記録に留意したい。
71	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報提供書を基に理解し、不明な時は医療関係者に確認している。また、チェック表を設け間違いのないようにしている。	○	内服薬が変更の時はより注意していきたい。
72	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	チェック表で排便状態を把握すると共に、便秘の方には乳酸飲料や水分摂取等を促している。また、日課に体操を取り入れている。	○	今後も現状で対応していきたい。
73	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	見守りや介助、義歯の消毒を個々の状態に応じて実施している。	○	今後も現状で対応したい。
74	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によりバランスやカロリーが計算されている。状況に応じて副食を細かくしたり、お粥にする等配慮している。	○	職員間の申し送りを徹底していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染対策のマニュアルを作成しそれに従い実施している。	○	定期の学習の機会をもうけていきたい。
76	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	定時の冷蔵庫や台所周辺の清掃・消毒日を設定している。	○	栄養士の来設時にチェックしてもらっている。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花を飾ったり、パラソル・椅子・テーブル等で親しみやすく出入りしやすい雰囲気を作っている。	○	環境整備に努力していきたい。
78	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベランダに椅子を置き、談話コーナーにソファを置きゆったりとした共有空間を作ると共に、季節の花を飾ったりしながら心地良い雰囲気作りをしている。	○	今後も充実に努めたい。
79	○共用空間における居場所づくり  共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間で自由に自分の居場所を見つけている。また、互いの居室を訪問している事もある。	○	利用者・家族の意見を聞いていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	使い慣れたものをできるだけ居室に持ってき てもらい自分らしい雰囲気を出している。また、設 置している家具は暖かな色彩を使用している。	○	家族にも意見を聞きながら居室の環境を整備して いきたい。
81	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	定時の温度・湿度チェックをしている。夏期は エアコン、冬期は加湿器で調整している。また、 消臭機能のある繊維を使用した寝具を使用し、に おい対策をしている。		冬季における加湿コントロールをさらに適切に行 いたい。（設備の検討）
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	建物全体がバリアフリーで、洋式トイレとウォ シュレットを設置したトイレもある。蛇口はセン サーを設置し自立と清潔に配慮している。	○	個別の身体機能を把握するように努めている。
83	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	トイレまでの誘導テープ、居室前に名札、目に 付きやすい場所にカレンダーを置く等の工夫をし ている。	○	情報収集に努め自立できるようにサポートしてい きたい。
84	○建物の活用  建物を利用者が楽しんだり、活動でき るように活かしている	ベランダや前庭に椅子を設置し談話するスペ ースを確保し、植物を鑑賞したり散歩できるよ うに配慮している。	○	より充実していきたい。

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

住宅地の中にあるので季節にあった花等で環境整備に力を入れています。また、交通の便が良く立地条件にすぐれています。